

化学科履修指針

1. はじめに
2. 化学科専門教育系科目の編成
3. 卒業のために必要な単位と条件
 - A. 化学実験履修のための条件
 - B. 特別研究履修のための条件
 - C. 卒業のための条件
4. 化学科履修方針
 - A. 選択必修科目について
 - B. 各年度の専門教育科目
5. 履修のためのガイダンス
6. 化学科科目の流れ
7. その他の注意事項
 - A. 教職に関わる学生実験の単位の修得について
 - B. 教職に関わる「理科教育法」の単位修得について
 - C. 掲示板について
8. 化学科の理数オーナープログラムについて
9. 卒業後の進路
10. Q & A

1. はじめに

化学科では、自然界の現象を分子を通して観察し、物質の構造や性質及び変化を分子・原子・電子レベルで解明したり、新しい物質を創り出したりする基礎研究を行っています。さらに、そこで得られた発見を独創的な研究や考え方に発展させて、新たな科学の分野を開拓することを目指しています。多くの人々の素朴な疑問や偶然の発見によって得られた化学の成果が、現代の生命科学や先端科学技術の目覚ましい発展を支えています。

化学科に入学してきた皆さんは、まず、人文科学や社会科学、外国語、情報処理教育科目などの共通教育系科目に加え、1年次から2年次前半まで全学共通教育科目の専門基礎教育科目として、理学部の教育理念（P. 2参照）に沿ったカリキュラムである「理学部コア科目」を受講することになります。これらの科目は理学というスタンスに立ち、広い教養と基礎学力を身につけることを目的として設けられたものです。したがって、数学、物理学、化学、生物学すべての基礎であり重要な授業と実験が必修科目として、また少し専門性が高いものが選択科目として配当されています。この目的を理解する雰囲気をつくるためもあって、1年次の授業クラスは全学科の学生を含んだ混成で構成されており、理学部全体で共通のカリキュラムを履修することになります。この時期は、学科を越えた友人ができる良い機会でもあり、様々な分野を志す皆さんのつながりは、将来の皆さんの大きな財産になるでしょう。

1年次で配当されている化学科の授業科目に「化学入門セミナー1, 2」と「理学への招待」があります。これらと、2年次前半の「化学発展セミナー」は専門教育科目の選択科目に当たりますが、全員受講することを前提としています。「化学入門セミナー1, 2」と「化学発展セミナー」は、化学及び化学科についての詳しいガイダンスと少人数グループでのセミナーを行う学生参加型の授業です。教員と親しく接し化学科のことをよく知る機会でもありますので、積極的に参加してください。また「理学への招待」は、最先端での研究や理学としての考え方などを外部講師の先生をお呼びしわかり易くお話し頂く講義です。2年次前半には種々の選択コア科目が配置されています。ここで、化学科の皆さんには、「基礎化学3」と「自然科学実験2化学」を受講することを強く推奨します。もちろん、各自の興味に合わせてそれ以外の選択科目も積極的に受講してください。

2年次からは、いよいよ本格的に化学科の専門教育科目を学びます。カリキュラムの内容については以降のページで詳しく述べるように、学部教育では、幅広い自然科学の教養と化学の基礎をしっかりと学ぶことに重点を置いています。2～3年次では、無機化学、有機化学、物理化学、高分子科学など化学の各分野の基礎を体系的に学び、化学実験の安全な技術を習得します。さらに3年次から、選択科目を中心にやや高度専門的な化学を学び、1月になると、「化学特別実験」において研究室で最先端の研究の一端に触れます。3年次後期に配当の「化学への道程と私たち」は選択科目ですが、研究室配属のための重要な情報提供の場となりますので、是非受講してください。4年次は各自がテーマをもち卒業研究を行うこととなります。このような学習を通して、確立された知識の美しい体系がつけられていると同時に、沢山の重要な問題が解明されるのを待っているのが分かるでしょう。大学院へ進学してさらに高度な教育を受け、研究を志す人には、大学院博士課程（化学専攻や高分子科学専攻）が設けられています。

2. 化学科専門教育系科目の編成

P. 44 に示された図は、皆さんが1年次から4年次の間に学ぶ、化学科専門教育科目の学年別の編成（上段の実線で囲まれた部分）と全学共通教育専門基礎教育科目（理学部コア科目，下段）が記されています。

この図で◎がついている科目は、皆さんが卒業のために単位を修得しなければならない必修科目です。◇印のついている科目は、選択必修科目A群で、卒業するためにはどちらか一方の科目の単位を修得する必要があります。□の印がついている科目は、選択必修科目B群で、卒業するためには、必ずしもすべて必要ではありませんが、規定単位数以上を修得しなければなりません。その他の科目は、選択科目です。（ ）内の数字は単位数です。選択科目は、これ以外に独自の選択も可能です。学科外，学部外の自由選択科目については，P. 8を参照してください。

理学部コア科目（専門基礎教育科目）・化学科専門教育科目（平成28年度入学者用）

専門教育科目

I	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	II		III		IV		V	
化学入門セミナー1 (1)	化学入門セミナー2 (1)	①分析化学1 (2)	②無機化学1 (2)	無機化学2 (2)	無機化学3 (2)	化学文献調査 (2)	VII	VIII
②安全実験法 (1)	☆理学への招待 (1)	②有機化学1 (2)	分析化学2 (2)	放射化学 (2)	無機工業化学 (2)	◇化学特別研究 (10)		
		○有機化学演習1 (1)	③有機化学2 (2)	○無機放射化学演習 (1)	有機生物化学 (2)	◇高分子科学特別研究 (10)		
		◎量子力学概論 (2)	○有機化学演習2 (1)	分析化学3 (2)	有機金属化学 (2)	無機放射化学特論 (2)		☆科学英語基礎 (1)
		○量子力学演習 (1)	量子化学1 (2)	有機化学3 (2)	生化学2 (2)	有機化学4 (2)		数値計算法基礎 (2)
		◎化学熱力学1 (2)	◎化学反応論1 (2)	有機化学演習3 (1)	分子構造論2 (2)	有機機器分析 (2)		
		化学発展セミナー (1)	化学熱力学2 (2)	生化学1 (2)	量子化学2 (2)	物性化学 (2)		
		化学オナーセミナー1 (1)	分子構造論1 (2)	化学反応論2 (2)	○統計熱力学演習 (1)	化学反応論3 (2)		
			◎高分子科学 (2)	統計力学概論 (2)	高分子合成化学2 (2)	化学熱力学3 (2)		
			化学プログラミング(2)	○高分子科学演習 (1)	高分子物理化学2 (2)	有機工業化学 (2)		
			◎基礎化学実験 (2)	高分子合成化学1 (2)	化学生生物学 (2)	☆科学技術論A (2)		
			☆理学への招待 (1)	高分子物理化学1 (2)	化学への道程と私たち (1)	☆科学技術論B (2)		
			化学オナーセミナー2 (1)	◎化学実験1 (6)	◎化学実験2 (6)	☆科学英語基礎 (1)		
				☆科学技術論A (2)	◎化学特別実験 (2)			
				☆科学技術論B (2)	☆科学英語基礎 (1)			
				☆科学英語基礎 (1)	化学オナーセミナー4 (1)			
				化学オナーセミナー3 (1)				

◎ 必修科目

◇ 選択必修科目A群

○ 選択必修科目B群

□ 選択必修科目

これら以外は選択科目

() 内数字は単位数

☆ 複数年次の学生を対象にしている科目

理学部コア科目（専門基礎教育科目）

◎自然科学実験1 (1×4)
◎線形代数学1 (2)
◎線形代数学2 (2)
◎基礎解析学1 (3)
◎基礎解析学2 (2)
□物理学1A (2)
□物理学2A (2)
□物理学1B (2)
□物理学2B (2)
□物理学序論1 (2)
□物理学序論2 (2)
◎基礎化学1 (2)
◎基礎化学2 (2)
◎生物科学コアA (2)
◎生物科学コアB (2)
◎宇宙地球科学1 (2)
◎宇宙地球科学2 (2)
◎自然科学実験2 (1×2)
◎確率・統計 (2)
◎基礎化学3 (2)
◎自然科学実験2 (1×2)
◎宇宙地球科学2 (2)
◎宇宙地球科学1 (2)
◎現代物理学入門 (2)

注) この表は、入学時点で計画している科目編成表であり、効果的なカリキュラムを提供するために開講時期を変更することがあります。

化学科卒業要件単位表

履 修 区 分	全学共通教育科目											専門教育科目			合 計			
	教養教育科目				言語・情報教育科目				基礎処 理教育 科目	健康・ スポーツ 教育 科目	専門基 礎教育 科目 (理学 部コア 科目か ら履修 するこ と)	* その他	必 修 科 目	選 択 必 修 科 目 A 群		選 択 必 修 科 目 B 群	選 * 択 科 目	
	基礎教 養科目	現代教 養科目	先端教 養科目	国際教 養1	国際教 養2	外国語教育科目		情報処 理教育 科目										
						第1外国語	第2 外国語											
2	2	2	2	2	4	3	1	3	2	—	2	25	6	33	10	4	28	129
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

単位修得についての注意 (P. 5~9, 46を参照)

☆専門基礎教育科目の25単位は、理学部コア科目から修得すること。

*その他の6単位：○印で指定された科目のうちから、卒業要件単位を超える分をもって充てる。なお、「国際教養2」「外国語教育科目」「健康・スポーツ教育科目」については、「全学共通教育科目履修の手引き」に記載されている理学部配当科目及び*印のついた科目のみを「その他」の単位と認める。また、情報処理教育科目で2単位を越えて修得した単位は「その他」の科目の単位にはなりません。

$$** \text{選択科目 (専門教育科目) の単位} = \text{選択科目} \times 4 \text{ 単位 (上限)} + 10 \text{ 単位 (上限)} + \text{選択科目の単位} = 28 \text{ 単位}$$

☆理学部コア科目の選択科目については、所定の単位を超えて修得した単位のうち4単位を限度として、専門科目の選択科目に算入する。ただし、専門科目の選択科目に算入された単位は「その他」科目の単位には算入しない。

☆自由選択科目には、他学科や他学部の専門教育科目、情報処理教育科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目、グローバルコラボレーション科目、大学間相互単位互換協定に基づく他大学の科目が対象となります。情報処理教育科目については、所定の単位を超えて修得した単位が対象で、この単位とコミュニケーションデザイン科目・グローバルコラボレーション科目・国際交流科目の単位を合わせて2単位が限度となります。

3. 卒業のために必要な単位と条件

卒業するためには、いくつかのハードルがあります。3年次の科目である「化学実験1, 2および化学特別実験」と4年次の科目である「化学特別研究」ないしは「高分子科学特別研究」を履修するための条件です。これらの科目を履修できない場合には、理由の如何を問わず留年ということになりますので注意してください。

A. 化学実験履修のための条件

3年次において、化学実験1, 2および化学特別実験が必修科目として配当されています。この科目を履修するためには以下の条件を満たす必要があります。

- 1) 1, 2年次配当の全学共通教育科目
 - a. 専門基礎教育科目以外の科目
卒業に必要な29単位のうち、25単位を修得していること。
 - b. 専門基礎教育科目（理学部コア科目）
卒業要件単位数25単位のうち、「自然科学実験1」4単位を含む21単位を修得していること。
- 2) 1, 2年次配当の専門教育科目
必修科目19単位のうち、「基礎化学実験」2単位を含む13単位を修得していること。
- 3) 化学特別実験を履修するためには、「化学実験1」の6単位を修得していることが必要になります。

B. 特別研究履修のための条件

4年次の化学特別研究、高分子科学特別研究（選択必修A群10単位）は配属された研究室で行う科目で、いわゆる卒業研究です。これを履修するためには以下の条件を満たす必要があります。

- 1) 共通教育系科目
卒業に必要な29単位すべてを修得しておくこと。
- 2) 専門基礎教育科目（理学部コア科目）
卒業に必要な25単位すべて修得しておくこと。
- 3) 専門教育科目
 - a. 必修科目
33単位のうち、「化学実験1, 2および化学特別実験」の14単位を含む31単位を修得していること。
 - b. 選択必修科目と選択科目
18単位（ただし、選択必修科目B群4単位以上を含む）を修得していること。

C. 卒業のための条件

共通教育系科目から29単位以上、専門基礎教育科目（理学部コア科目）から25単位以上（必修科目23単位、選択科目2単位以上）、専門教育科目から75単位以上（必修科目33単位、選択必修科目A群10単位、選択必修科目B群4単位以上、選択科目28単位以上）の計129単位以上を修得することが必要です。詳しくは、P. 45を参照してください。

4. 化学科履修方針

化学科専門教育科目は必修科目，選択必修科目A群，選択必修科目B群，選択科目に分かれています。卒業するためにはそれぞれ以下の単位数を揃える必要があります。

履修区分	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択科目
単位数	33	10	4	28

A. 選択必修科目について

- (1) 選択必修科目A群には化学特別研究と高分子科学特別研究があります。これは4年次における配属された研究室で行う卒業研究に対応します。化学特別研究か高分子科学特別研究のいずれかの科目を選択することになります。
- (2) 選択必修科目B群には，量子力学演習，有機化学演習1，高分子科学演習，無機放射化学演習，有機化学演習2，統計熱力学演習の6科目があります（有機化学演習3は，選択必修科目B群には含まれていないので注意してください）。ここより4科目以上について単位を修得する必要があります。これより多く修得した分については，選択科目の単位と見なされます。選択必修科目B群では全ての科目を受講することを強く勧めます。

B. 各年度の専門教育科目

各年度ごとに以下に示す専門教育科目が開講されます。（ ）内の数値は単位数です。

*印をつけた科目を受講するためには一定の条件を満たす必要がありますので，P. 46 の説明にも目を通してください。また◇印を付した科目は選択必修科目A群，○印を付した科目は選択必修科目B群です。

1年次

セメスター	必修科目（単位数）	選択科目（単位数）
I	安全実験法(1)	化学入門セミナー1 (1)
II		化学入門セミナー2 (1) 理学への招待 (1)

2年次

セメスター	必修科目（単位数）	選択科目（単位数）
	選択必修科目（単位数）	
III	量子力学概論 (2)	化学発展セミナー (1) 化学オーナーセミナー1 (1)
	化学熱力学1 (2)	
	分析化学1 (2)	
	有機化学1 (2)	
	○量子力学演習 (1)	
	○有機化学演習1 (1)	
IV	有機化学2 (2)	分析化学2 (2) 量子化学1 (2) 化学熱力学2 (2) 分子構造論1 (2) 化学プログラミング (2) 化学オーナーセミナー2 (1)
	無機化学1 (2)	
	化学反応論1 (2)	
	高分子科学 (2)	
	基礎化学実験 (2)	
	○有機化学演習2 (1)	

3 年次

セメスター	必修科目 (単位数)	選択科目 (単位数)
	選択必修科目 (単位数)	
V	*化学実験 1 (6)	無機化学 2 (2) 放射化学 (2) 分析化学 3 (2) 有機化学 3 (2) 有機化学演習 3 (1) 生化学 1 (2) 化学反応論 2 (2) 統計力学概論 (2) 高分子合成化学 1 (2) 高分子物理化学 1 (2) 科学技術論 A (2) 科学技術論 B (2) 科学英語基礎 (1) 化学オナーセミナー 3 (1)
	○無機放射化学演習 (1) ○高分子科学演習 (1)	
VI	*化学実験 2 (6) *化学特別実験 (2)	無機化学 3 (2) 無機工業化学 (2) 有機生物化学 (2) 有機金属化学 (2) 生化学 2 (2) 分子構造論 2 (2) 量子化学 2 (2) 高分子合成化学 2 (2) 高分子物理化学 2 (2) 化学生物学 (2) 化学への道程と私たち (1) 科学英語基礎 (1) 化学オナーセミナー 4 (1)
	○統計熱力学演習 (1)	

*化学実験 1, 2 および化学特別実験を履修するためには, P. 46 に記載されている履修のための条件を満たしていなければなりません。

4 年次

セメスター	必修科目 (単位数)	選択科目 (単位数)
	選択必修科目 (単位数)	
VII		無機放射化学特論 (2) 物性化学 (2) 化学反応論 3 (2) 化学熱力学 3 (2) 有機化学 4 (2) 有機機器分析 (2) 有機工業化学 (2) 科学技術論 A (2) 科学技術論 B (2) 科学英語基礎 (1)
VIII		科学英語基礎 (1) 数値計算法基礎 (2)
通年科目	*◇化学特別研究 (10) *◇高分子科学特別研究 (10)	化学文献調査 (2)

*化学特別研究または高分子科学特別研究を履修するためには, P. 46 に記載されている条件を満たしていなければなりません。

5. 履修のためのガイダンス

化学は、物質とその変化を研究する自然科学の中でも最も基本的なものの一つです。その研究の対象は、構造面からは原子から分子へ、分子から高分子へ、そしてそれらの集合体へと広がり、一方、機能面ではアミノ酸をはじめとする小分子に始まり、蛋白質、酵素、核酸などから生命そのものへ、また物性面では興味ある化合物へと限りなく広がっていると云えます。このように多様な対象を扱う研究分野で活躍できる広い視野を持った人材を育成するため、化学科では、自然科学全般と幅広い専門分野の基礎教育に重点をおいています。そのために大学の四年間で身につけなければならない知識は多く、また相互に関係しあっています。創造的な研究を行うには専門知識も必要ですが、同時に専門分野に偏らない幅広い発想も重要だからです。早い段階から好き嫌いだけで興味の範囲を絞らないように注意してください。以下の事柄に注意しながら各科目に興味を持って取り組むように心がけてください。理学部出身者は企業に就職しても先で伸びるとよく言われるのは、このような教育によって基礎がしっかりしているからです。

○全学共通教育科目や理学部コア科目では、化学はもちろんですが、その他の自然科学や人文科学の分野の科目も積極的に履修してください。その効果はきっと後になってから現れてきます。

○化学科配当の科目は出来るだけ数多く履修してください。自分の目指す専門分野がすではっきりしていると思う人も、むしろそれとは異なる分野の科目も履修するようにしてください。

○3年次2学期から4年次1学期は、専門分野を決めるうえで最も重要な時期ですので、化学科の専門教育科目はもとより、興味のある分野に関連する他学科の科目も選択肢に入れ、積極的に履修するように心がけてください。

以下に化学科で開講している授業と実験、そして特別研究について説明します。

1) 化学入門セミナー

1年次に前期と後期にわけて行うセミナー形式の授業です。はじめは、化学科の紹介や履修のガイダンス、さらに将来のことを考えたり、化学科の一員としての自覚を持ってもらうためのいろいろな話や討論を行います。その後、小グループに分かれて化学関連の、(i)英語の論文を読む、(ii)自ら課題を提起し調査する、(iii)問題の演習や実験をするといったことを通して、問題の解決法を学びます。また、教員が行なっている研究のわかり易い解説を行なったりします。

2) 理学への招待

各分野で活躍されている先生を外部からゲストスピーカーとしてお招きし、最先端での研究、理学としての物の考え方、科学者としての生き方などをお話し頂きます。1)の化学入門セミナーとあわせて全員履修して下さい。

3) 化学発展セミナー

1年次に履修した化学入門セミナーをさらに発展させた、自主性を重んじたセミナー形式の授業です。いくつか設定された化学に関するテーマごとに小グループに分かれて、文献調査、演習、

実験等を行い、化学への興味を深めることを目的としています。

4) 基礎的科目（必修科目，選択必修科目）

上にも述べたように、化学は広い分野にまたがり、さらに多くの応用分野の基礎となることから、学部教育のカリキュラムは幅広い自然科学の教養と化学の基礎を広くしっかりと学ぶことに重点を置いています。それゆえ学部の専門教育科目は全てが基礎的科目と言えますが、特に2～3年次に開講されている科目は、いずれも今後化学の専門家になるために必要な基本的な内容です。可能な限り全てを受講し修得するように努めてください。この中で、必修科目となっているものは、各分野の最初の科目に当たり、それ以後の授業内容を理解するために絶対に必要な基礎的内容です。

5) 演習科目

基礎的科目の内容を確実に、しかもより深く理解するために、実際に種々の演習問題を解いたり講義では触れられなかったいろいろな問題を考えたりします。選択必修科目B群の6科目中4科目の選択必修となっていますが、いろいろ質問しながら実力を養うよいチャンスです。演習科目は全科目に積極的に参加してください。特に、必修科目は対応する演習を受けることを前提として講義されます。なお、「有機化学演習3」は演習科目ですが、選択必修科目B群には入っていないので、注意して下さい。

6) 専門的科目（選択科目，自由選択科目）

学部開講の授業はすべてが基礎的で大切なものですが、強いて分類すると、4年次に配当されている科目は研究室に配属されてから受講するため、ある程度それぞれの分野の専門的な内容となっています。繰り返し強調しますが、自分が進もうとする分野の授業だけでなく、興味ある他分野の授業も積極的に受講してください。また、他学科・他学部で開講されている専門教育科目（自由選択科目として卒業単位に含めることができる）にも分野によっては履修しておくことが望ましいものがありますので、研究室の先生の見解も伺い履修して広く勉強することを薦めます。

7) 化学への道程と私たち

化学の専門家としての将来を展望するために、現在の最先端の研究動向を、化学科の各研究室の先生方から説明を受ける授業です。3年次の11月から12月にかけて、集中講義の形式で行います。特に、4年次の配属研究室を選択するための情報源となる授業ですので、全員履修してください。

8) 基礎化学実験

化学科では物質を実際に扱うことが基礎となりますので、化学実験は化学科のカリキュラムの中で重要な位置にあり、理学部コア科目の「自然科学実験1，2」を含めると、全ての Semester で常に実験ができるようにプログラムされています。「基礎化学実験」は2年次2学期にスタートする最初の専門化学実験です。安全教育や実験法に関する講義やデモンストレーションと平行

して、本格的な化学実験を行うための基本操作の習得を目的とした実験を行います。

9) 化学実験 1, 2

3年次の1学期火～木曜日と2学期火～金曜日の午後全てが「化学実験1」と「化学実験2」にそれぞれ当てられており、本格的な実験をじっくり行うこととなります。「化学実験1」は主に測定系の実験、「化学実験2」の前半部は合成系の実験となります。今後、理論系も含めどの分野に進むにも必要となる厳選された基礎的・教育的内容の実験であり、必修となっています。

10) 化学特別実験

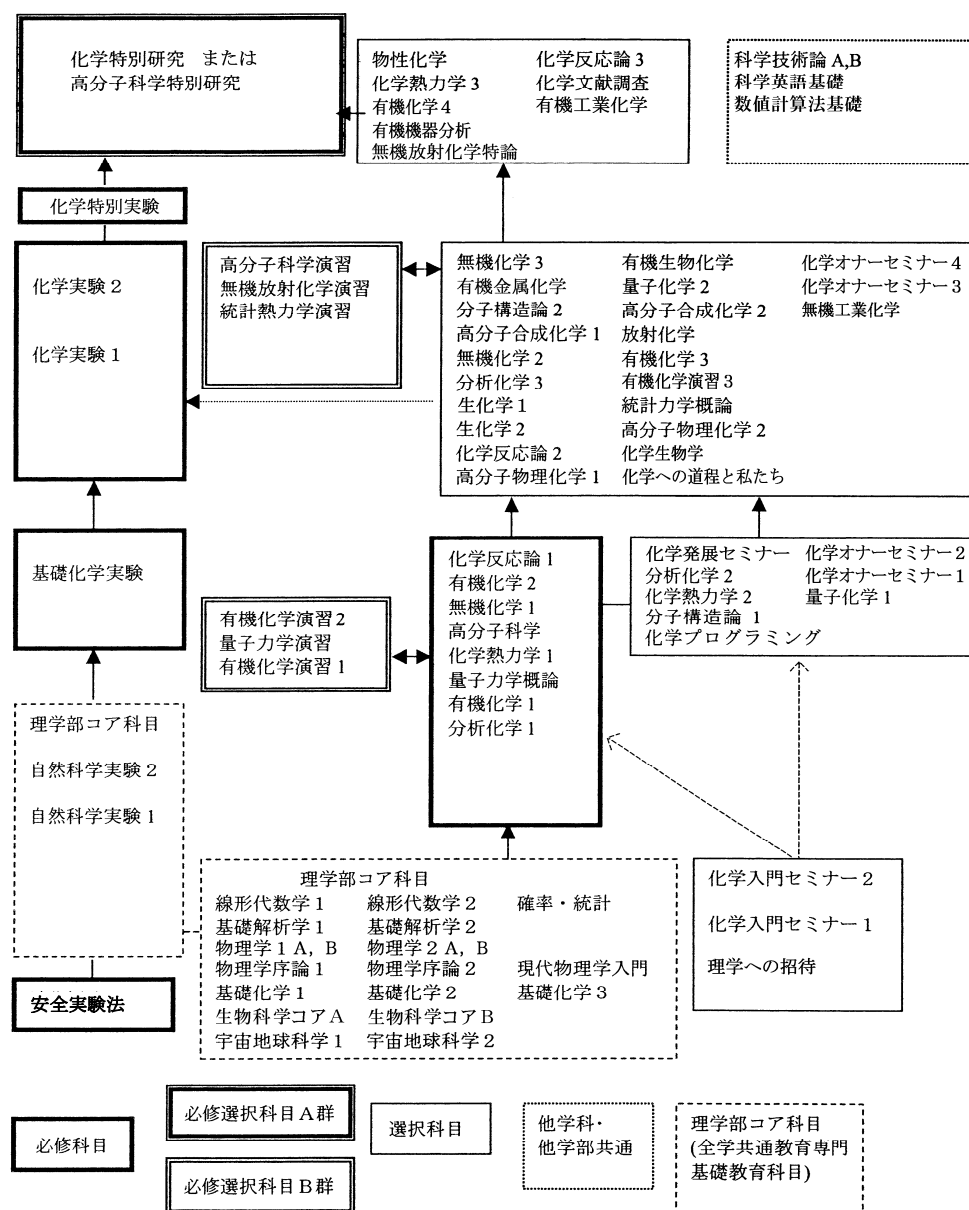
3年次の2学期から、各自の専門分野を決めるための準備に入ります。「化学への道程と私たち」において、化学科の様々な研究室で行なわれている最先端の研究を詳しく学び、各分野のことを理解した上で、自分にあった研究室を決めます。そして、決定された研究室での4年次の特別実験を行うための準備、調査、予備実験を行うのが、この「化学特別実験」です。必修科目で、3年次前期に「化学実験1」をとっておくことが履修のための条件となります。

11) 化学特別研究、高分子科学特別研究

いわゆる卒業研究にあたり、選択必修の科目です。決定された研究室に所属し、最先端の研究の一端を担うこととなります。これまでに身につけてきた知識や実験技術を生かし、研究というものを経験し、研究の考え方、進め方、まとめ方を学ぶこととなります。研究室で催される研究セミナーや各種勉強会などへの参加も含まれます。この科目と同時に、関係する原著論文による生きた学習や論文調査の方法を勉強する「化学文献調査」も合わせて履修してください。より本格的な研究指導は、大学院に進んでから受けることとなります。

なお、選択科目を選ぶ際には、まず、シラバスをよく読んで講義内容や他の科目との関連を把握するように努めてください。大切なのは自主的に選択することです。単位の修得が容易かどうかで選ぶものではありません。実際には、3年次までに開講されている科目についてはほとんど全てを受講することを強く薦めます。講義内容や履修方法で分からないことがある場合は、遠慮なくクラス担任、教務委員などに聞いてください。

6. 化学科科目の流れ



7. その他の注意事項

A. 教職に関わる学生実験の単位の修得について

中学校理科の教員免許を取得するためには、物理学、化学、生物学、地学の各実験科目の単位が必要です。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ Semesterに開講される理学部コア科目から「自然科学実験1 物理」「自然科学実験1 化学」「自然科学実験2 生物」「自然科学実験2 地学」以上4科目を全て履修してください。

一方、高等学校理科の教員免許のみを修得する場合は、選択科目である「自然科学実験2 生物」および「自然科学実験2 地学」を必ずしも履修する必要はありません。

B. 教職に関わる「理科教育法」の単位修得について

中学校の教員免許を取得するためには、3年次を対象に開講されている1学期「理科教育法A（ま

たはC)」および2学期「理科教育法B（またはD）」の両方を履修してください。

また、高等学校の教員免許のみを取得する場合は、1学期「理科教育法A（またはC）」もしくは2学期「理科教育法B（またはD）」のいずれかを履修してください。

C. 掲示板について

化学科では皆さんに重要なアナウンスがある場合、掲示板に通知を出して連絡するシステムを採っています。具体的には、試験の結果や追試験・補講の日程、あるいは学生の呼び出し通知など、単位を修得するのに不可欠な連絡事項が掲載されます。したがって皆さんは、掲示板を頻繁に（できるだけ毎日）確認する必要があります。理学部全学科共通の掲示板とあわせて、化学科に関する掲示板は、以下の2箇所にあります。

- 1) 全学教育講義A棟
- 2) 理学部通用口前（理学部全学科共通）

なお、パソコンのWebブラウザからログインする学務情報システム「KOAN」の掲示板のみのものもありますので、注意してください。

8. 化学科の理数オーナープログラムについて

化学科では強い意欲を持つ学生を応援するための理数オーナープログラムを実施します。理数オーナープログラムに参加を希望する人は、次の科目を履修してください。

- (1) 化学オーナーセミナーを2科目2単位以上
化学オーナーセミナー1（1単位：2年生対象）
化学オーナーセミナー2（1単位：2年生対象）
化学オーナーセミナー3（1単位：3年生対象）
化学オーナーセミナー4（1単位：3年生対象）
- (2) 選択必修科目B群の演習6科目（6単位）
量子力学演習，有機化学演習1，高分子科学演習，無機放射化学演習，有機化学演習2，統計熱力学演習
- (3) 大学院理学研究科化学専攻あるいは高分子科学専攻配当科目8単位
4年次の段階で、(1)の化学オーナーセミナー2単位を修得し、3年次1学期終了時点で修得した専門教育科目の（単位数の重みをつけた）平均成績（GPA）が3.0以上であれば、大学院科目等履修生として、大学院理学研究科化学専攻あるいは高分子科学専攻配当の科目を履修することを許可します（S=4，A=3，B=2，C=1，F=0）。大学院のどの講義をとるかについては、化学科教務委員との相談によって決定します。
なお、この単位は理学部化学科の卒業要件の単位とはなりません。

● 理数オーナープログラム修了の条件

以上の単位を修得し、(2)の選択必修科目B群6科目の成績がSまたはAであり、かつ、単位数

の重みをつけた化学科専門教育科目（学科共通科目を除く）に（3）の大学院配当科目を加えたものの平均成績（GPA）が3.00以上であれば、卒業時に理数オナープログラム修了証を授与します（S=4, A=3, B=2, C=1, F=0）。

※化学科専門教育科目はP.133の科目表に記載する科目です。ただし、次の学科共通科目は除きます。
「安全実験法」、「理学への招待」、「科学技術論A・B」、「数値計算法基礎」、「科学英語基礎」

なお、開講されるオナーセミナーに関しては次のホームページを参照してください。

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/honr/>

9. 卒業後の進路

化学科の卒業生は、例年約85%が大学院・博士前期課程（修士課程）に進学します。化学科の講義・演習・実験は、大学院・理学研究科の化学専攻および高分子科学専攻の教員が担当しており、3年次の化学特別実験、4年次の卒業研究（特別研究）はどちらかの専攻の研究室に配属されて行われます。取り組んだ研究を継続するために、大学院に進学を志望する学生の大多数が、そのまま化学または高分子科学専攻の修士課程に進学します。近年は他大学から各専攻の大学院へ入学する学生が増加し、逆に本学科から他大学の大学院へ移るケースもあります。学部卒業生のうち約15%は就職します。

大学院では、より高度な化学の知識や研究の仕方を学び、多くの人が修士課程修了後に企業等に研究者として就職していますが、約4分の1の人は博士後期課程（博士課程）に進んでいます。博士課程を修了して学位を取ると、大学や国立の研究機関に就職したり、最近では企業の研究所に就職し、第一線の化学者として活躍しています。

企業への就職の場合は、やはり化学系企業への就職が最も多いですが、最近は電気・情報など他の分野への進出も増えており、卒業生は各分野で活躍しています。

10. Q & A

Q 1 パソコンを持つ必要がありますか？

A 1 経済的に余裕があれば購入してください。但し、マックとウィンドウズの2タイプがありますが、専攻分野によって使用状況が違うので教員に相談してください。

Q 2 研究室配属のルールは成績最優先と聞きましたが、そうでしょうか？

A 2 調整原則は学生の希望を優先し、調整します。調整が成功しない場合、成績を考慮し、決定します。

Q 3 化学の研究には語学力（特に英語）が大切と聞きましたが、なぜ高学年にも語学の授業がないのですか？全学共通教育科目で学習する語学は科学英語ではないので役立たないと聞きましたか？

A 3 全学共通教育科目の英語学習は役に立たないというのは偏見です。どんな学科についても言

えることですが、勉強のやり方が悪いと役立たないでしょう。科学英語については、研究室配属後、4年次から集中的に指導していますが、低学年からもう少しきめ細かく、しかも継続的という方向で改良されつつあります。現状でも、卒業要件単位に算入されない外国語特別科目も開講されていますので活用してください。(全学共通教育科目履修の手引き、授業科目、言語の項参照)

Q 4 教育実習を3年次に実施することができますか？

A 4 教育実習は原則として4年次に実施します。また、化学科の場合、3年次に必修の実験が全期間あるので教育実習には行けません。

Q 5 介護実習で実験ができない場合、後日補習実験を受けられると聞きましたが、具体的に説明してください。

A 5 時間割の制約で、介護実習のため3～4日実験ができない日がでてきます。時期にもよりますが、学生実験室(大部屋)が使用できない状況もあります。この場合、研究室で実験を実施します。ただし、実験課題は実施できなかったものです。

Q 6 2年生でも夜遅くまで実習していると聞きましたが本当でしょうか？

A 6 実験に失敗して、再度行うということで遅くなることがありますが、通常は時間割通りに終了します。

Q 7 専門書は高価で個人で全て揃えられないと聞いています。図書館に揃っていますか？

A 7 概ね揃っています。ただ、使用頻度が高い、同一の参考書が複数ない場合があります、不便を感じる場合があるでしょう。

Q 8 過去の大学院入学試験問題を知りたいのですが？

A 8 理学部のホームページに掲載されています。理学部の大学院係にも保存されていますので、コピー用に貸し出してくれます。

Q 9 学部と大学院で研究室を変更できますか？

A 9 特別な事情がない限り可能です。変更希望の研究室の担当教授が定年などで退職予定の場合は難しいでしょう。

Q 10 化学科の過去の就職先の情報は研究室によって就職紹介に差があると聞きました。例えば製薬会社へ就職するにはある特定の分野の研究でないと不利とか？

A 10 基本的には就職担当の先生が全員に情報を流し、分野の区別無く平等に機会が与えられるようにしています。ただ、希に企業が特定研究分野を指定してくるケースがあります。